App Routerの紹介



Press Space for next page \rightarrow



- **ਡ** 飯野陽平 (wheatandcat)
- 臑 法人設立(合同会社UNICORN 代表社員)
- Work: シェアフル株式会社CTO
- Blog: https://www.wheatandcat.me/
- グ 今までに作ったもの
 - memoir
 - ペペロミア
 - MarkyLinky

App Routerとは?

- Next.js 13.4で追加された新しいルーティング機構
- 従来のNext.jsのルーティングは**Page Router**
- **RSC**(React Server Components)の使用を前提と設計

RSC (React Server Components) とは?

- Reactでサーバーサイドでレンダリングできるコンポーネントを宣言できる仕組み
- 元々、Reactにはクライアントサイドでレンダリングする**クライアントコンポーネント**しかなかった
- SSRは、クライアントコンポーネントをサーバーサイドでレンダリングする仕組み
- RSCを使用することでサーバーサイド固有の機能を実装できる
 - 例えばReact内で直接データベースにアクセスすることなどが可能
- 逆にRSCではクライアントサイド固有の機能は使用できない
 - 例えば、useStateやuseEffectなどのHooksは使用できない
 - 宣言した時点でエラーになる
- RSCで宣言されたコンポーネントはブラウザ側で読み込みbundleされたJavaScriptには含まれないため、読み込むファイルサイズは小さくなる

App Routerのルーティング基本機構

■ 従来のPage Routerのルーティング機構

■ App Routerのルーティング機構

ルーティング毎に動的にfavicon、OG画像を変更する

■ App Routerのルーティング機構だと以下のように設定が可能

```
src

└ app

├ layout.tsx → 共通設定

└ items

└ [id]

├ icon.tsx → 動的faviconを変更

└ opengraph-image.tsx → 動的OG画像を変更
```

- 以下、書き方の参考
 - src/app/icon.tsx

```
export default function Home() {
    <div className="container">
      <h1 className="text-5xl">
        Sample App
      <CrudShowcase />
async function CrudShowcase() {
  const session = await getServerAuthSession();
    const url = await api.url.existsByUserId.query({userId: String(session?.user.id)});
    if (url) redirect(`/schedule/${String(url?.id)}`);
  return <CreateUrl />;
```

```
async function CrudShowcase() {
```

```
const session = await getServerAuthSession();
 const url = await api.url.existsByUserId.query({userId: String(session?.user.id)});
  if (url) redirect(`/schedule/${String(url?.id)}`);
```

```
return <CreateUrl />;
```

```
"use client";
export function CreateUrl() {
      router.push(`/items/${data.id}`);
 const onCreate = useCallback(() \Rightarrow {
      className="button"
      新しいデータを作る
```

```
"use client";
```

```
export function CreateUrl() {
      router.push(`/items/${data.id}`);
  const onCreate = useCallback(() \Rightarrow {
      className="button"
      新しいデータを作る
```

- **RSC**ではasync/awaitが使用できる
- RSCではhooksは使用できないのでデータ更新で使用するuseMutationはクライアントコンポーネントで実 装する必要がある
- RSCでデータ取得する場合は、直接データベースにアクセスが可能なので以下のように実装が可能

```
export default async function Page({ params }: { params: { id: string } }) {
  const session = await getServerAuthSession();

const url = await api.url.exists.query({ id: params.id });
  if (url == null) {
      // 存在しないURLの場合はトップページに戻す
      redirect("/");
  }

... 省略
```

- **RSC**ではasync/awaitが使用できる
- RSCではhooksは使用できないのでデータ更新で使用するuseMutationはクライアントコンポーネントで実 装する必要がある
- RSCでデータ取得する場合は、直接データベースにアクセスが可能なので以下のように実装が可能

```
export default async function Page({ params }: { params: { id: string } }) {
  const session = await getServerAuthSession();

const url = await api.url.exists.query({ id: params.id });
  if (url == null) {
      // 存在しないURLの場合はトップページに戻す
      redirect("/");
  }
  ... 省略
```

- **RSC**ではasync/awaitが使用できる
- RSCではhooksは使用できないのでデータ更新で使用するuseMutationはクライアントコンポーネントで実 装する必要がある
- RSCでデータ取得する場合は、直接データベースにアクセスが可能なので以下のように実装が可能

```
export default async function Page({ params }: { params: { id: string } }) {
  const session = await getServerAuthSession();

const url = await api.url.exists.query({ id: params.id });
  if (url == null) {
    // 存在しないURLの場合はトップページに戻す
    redirect("/");
  }

... 省略
```

実装してみる

- PR: App Routerに変更する
- 以下、デモしながら説明
 - App Routerの移行で以下の処理はシンプルに実装できた例1
 - 旧コード
 - 新コード
 - App Routerの移行で以下の処理はシンプルに実装できた例2
 - 旧コード
 - 新コード

まとめ

- App Routerは**RSC**を前提としたルーティング機構になっている
- RSCを使用するとデータ取得周りはシンプルに実装できる
- ただ、App Routerはフロントエンド界隈では賛否両論で、当面Web文脈では議論されていきそう
 - 一休レストランで Next.js App Router から Remix に乗り換えた話
 - 元々Next.jsはWeb標準のAPIに準拠していないことが問題視されていて、App Routerでより、その点が 強まった
 - 逆にRemixはWeb標準のAPIに準拠した思想で実装されているので対象的になっている

